

令和元年度第1回石狩市行政改革懇話会

日 時：令和元年9月2日（月）15：00～

場 所：石狩市役所3階 庁議室

出席者：次のとおり

委 員			職 員	
役職	氏 名	出欠	所 属	氏 名
会長	角川 幸治	○	(事務局) 総務部長	及川 浩史
副会長	飯尾亜紀仁	欠	(事務局) 総務部情報政策課長	森本 栄樹
委員	能村久美子	○	(事務局) 総務部行政改革担当主査	鎌田 晶彦
委員	松谷 初代	○		
委員	上木 智子	○		
委員	運上 昌洋	○		
委員	東 幸子	欠		
委員	本間 貴士	○		

傍聴人：1名

次第1 開会宣言

次第2 市長挨拶

【事務局：森本課長】

令和元年度第1回行政改革懇話会を開催いたします。

会議に先立ちまして、6月27日より就任いたしました、加藤市長から一言ご挨拶を頂きます。市長、よろしくお願いします。

【加藤市長】

改めまして、皆さんこんにちは。ようやく私も市長に就任して二月が過ぎ、毎日慌ただしく過ごしております。やはり自分に課せられた職責を果たす為、与えられた任期中に、しっかりと果たすべき役割を果たしたいと思っております。日頃から市の様々な行政運営に色んなかたちでご支援・ご協力、本当に有難うございます。また、行革の委員さんも今年2年目で、最終年度ということでもありますので、引き続きよろしくお願いしたいと思っております。「行政改革」この言葉はもう言われて云十年経ちます。非常に難しいものであります。ただ私、前職の監査委員、また部長時代において思う事は、行政改革というのは、間違いなく必要だということです。我々、どうしても悲しいかな、計画をつくる時一生懸命やるんです。問題は、それをどう実行していくかがです。

私も40年近く公務員をやっているのですが、そこが我々の一番弱いところです。ただ、弱いからといって、いつまでもそのままという訳にはいきません。やはり、行政改革は100点ということはありませんので、とにかく市役所は、私自身含めてとにかく不断の努力によって最小の経費で最大の効果を挙げる。これが自治法の大きな目的であります。それに向かって私含め職員一丸となって、何とか良いかたちで、良い行政運営をして58,000人の方達に、市民で良かったというまちづくりに取組みたいという風に思っておりますので、是非とも最後の任期でありますけれど、様々な視点でご享受を頂ければと思っています。よろしくお願いいたします。有難うございます。

【事務局：森本課長】

市長におかれましては、公務の都合上退席いたします。市長どうも有難うございました。

【加藤市長】

話しも一緒に聞ければ良いのですが、申し訳ないですけど、よろしくお願いいたします。有難うございました。失礼します。

次第3

議題（1）行政改革2021実施計画（平成30年度版）の実績報告について

【事務局：森本課長】

本日は大変お忙しいところお集まりいただきまして、有難うございます。会議次第の前に本日、東委員におかれましては所用の為、欠席という連絡を受けておりますことをこの場で連絡させていただきます。また副会長である飯尾委員におかれましても、欠席ということになります。どうぞよろしくお願いいたします。では、この後の進行につきましては、角川会長、よろしくお願いいたします。

【角川会長】

皆さん、こんにちは。令和元年度ということで、本日は第1回の行政改革懇話会になります。皆さま方、任期は2年ということで、折り返しにあたります。さきほど加藤市長から力強いお言葉頂きましてですね、この行政改革懇話会は、市長の諮問に答えるという意味合いもございます。また、市の諸問題、或いは、これから進むべき道、未来に対して、色んな目線を持って意見をしていく、という、大事な役割を持っております。また、市の職員の方も、基準がありますので、議事録に目を通して頂いて、色々と思うこと、感想等、或いは何を言っているんだろうな、というのものもあるかも知れませんが、やっぱり臆すること無く、あくまでも市民目線、或いは民間の目線を持って、遠慮無しに、色んな意見を頂きたいな、という風に常々思っております。私自身、そんなに経験がある訳では無い、人生経験も含めて、まだまだだな、という風

に思っているのですが、大分視線というか、目線というかが変わってきたんじゃないかな、と思っています。懇話会も、都度委員が変わり、また、若い世代の方も、入って来ていますし、また、女性も多く参加して頂いているので、様々な考え方、見方があるなっている風に、最近特に思っています。今日も、第1回ということで、計4回のうちの1回目スタートということになりますので、是非遠慮無く、今日は時間的に余裕がある様な気がしますので。気付いたことは、大いに意見を述べて頂きたい、という風に期待しております。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

今日の議題のメインとしてはですね、実施計画の30年度版の実績報告について、ということになりますが、その議題につきまして、事務局の方からよろしくお願いします。

【事務局：鎌田】

(1) 市民協働の更なる推進

1. 市民と協働によるまちづくりの推進

協働事業提案制度として4つの継続事業を実施したほか、防災と福祉の双方の観点からまち歩きを軸に地域防災力の向上を目指す事業、また国の史跡指定となっている「荘内藩ハママシケ陣屋跡」を整備・保存するとともに情報発信するなど地域活性化を図る活用事業の2つを新規事業として採択し今年度より事業を実施いたします。地域おこし協力隊は、新たに2名の隊員が着任し、計3名、厚田区2名、浜益区1名が活動中です。厚田区では、音楽を切り口とした高齢者向け「歌って脳トレ」の実施や厚田の自然をテーマとした周遊ツアーを通じて自然に触れる機会を創出、また、浜益区では、切り絵教室や地域コミュニティと協働で浜益オリジナルロゴマークとそれをプリントしたTシャツを製作し、地域の活性化に貢献しております。

2. みんなで進める観光まちづくり

「さけまつり」で市内中学生の参加企画によるご当地クイズ、「キッズ縁日」でのサポートが実施されております。そのほか市民観光サポーターとの協働による観光情報PRのほか市民ガイド向けスキルアップ講座、北前船ガイドブックを活用したワークショップなども実施しております。石狩の魅力は発見する「石狩観光交流会」という観光関係団体や市民が交流する場を創設する取組も実施しました。

3. 審議会等への女性登用

昨年度同様に委員割合を高める取組としまして、女性人材リストを作成し庁内に周知しリストを閲覧できる環境となっています。平成30年度の実績は32.3%となっています。

4. 魚つきの森プロジェクト推進事業

29年度実施した箇所の際接地において草刈を7,720 m²、地拵え3,000 m²、下刈39,000 m²を行い、その後、苗木を市民と協働で植樹しています。

5. 地域自治システムの構築

モデル事業を検証したところ、効果として地域活動に対する意識変化、福祉送迎などの新規事業の着手が挙げられ、課題については、各町内会における組織力や会長・役員の交代による効果実績の格差、周知不足等が挙げられました。次年度も引き続き地域力向上に向けた取組を行っていく予定です。周知不足の改善として町内会全戸へ活動内容を紹介する広報誌を回覧する予定となっております。

6. 住民どうしの新たな支えあいのシステムの構築

平成29年度実施の住民アンケートについて、住んでいる「地域」によって見えてくる「意識の違い」、「男女別」「年齢別」に見た結果などの詳細な分析から見えた課題に対し、住民アンケート会議としての提言を行い、平成31年3月に最終報告書を作成しています。

7. 外部組織を活用した災害に強いまちづくりの推進

自主防災組織訓練実施64回、救命講習実施123回。その他防災研修、イベントの開催・参加など、市民や市内で活動する団体等に対し、訓練や講習を通じて防災意識の高揚と地域防災対応力の向上を図りました。

【角川会長】

1の市民協働の更なる推進というところですね、皆様方からのご意見、確認したいこと等があれば、ご発言頂きたいのですけれども、ご存じの様に本懇話会の議事録は、全文筆記となっていますので、なるべく名前を言って頂ければ助かりますので、ご協力よろしくお願いします。

ご意見ありませんか。どうですか運上さん、何かありませんか。

【運上委員】

地域おこし協力隊のメンバーが増えてきたっていうことは、すごく良いことだと思います。あと、今年になって大学生が来ていますよね、あの方、元々違う事業で石狩に来てもらって、石狩が良いなって思って、地域おこし協力隊へという流れは、とても良い流れなのかな、と思っています。あとは、花川地区の人へどれくらいそれを周知出来るのかとか、頑張っていることを花川地区へ周知出来る様なことが出来ればな、ということで、地域おこし協力隊という事業上、厚田・浜益地区側の方が、人が入るというの

は、しょうがないことかも知れないのですけれども、石狩市全体として、そういう活動をみんなに分かってもらうことは大事だな、と思います。

【角川会長】

大学生の飯塚さんですね、頑張っているな、という風に思いますね。石狩のことに興味を持って、好きになってくれて参加してくれているっていう感じが出て、すごく良くなって、こういう若者が沢山出てきてくれて良いなっていう風に思っていますけどね。

【運上委員】

将来住んでくれたら一番嬉しいですね。

【角川会長】

本当、その通りですね。他ご意見ないでしょうか。3番の審議会等への女性の登用ということで、この行政改革懇話会は50%ですので、目標としている数字をはるかに上回っているということですね。能村さん、どうですか。

【能村委員】

この審議会委員の管轄っていうのは、どこでしたか。私、昔話したことあると思うのですけれど、学識経験者と団体推薦、あと、一般応募でしたね。で、一般の方の応募の場合は、多分、応募理由や履歴とか、自分で記載したもので申込をするのですけれども、昔団体に入って活躍された方が、例えば年齢だとかの理由で、団体から抜けてしまった場合、団体推薦を得られなく一般応募から参加するしか方法が無くて、何かそれってちょっと申し訳ない様なところも感じていて何か言葉として上手く言えないのですけれど、経験者枠や団体推薦でも無いのだけど、例えば、大学の先生をやっていた時は、学識経験者に入れるけれども、それを辞めて肩書が外れると、素晴らしい方が、なかなか声が掛からなかったり、或いは、また応募用紙を書いて、「応募してください」って形でしか出来ないことが勿体無いなと考えています。

市民参加に関する所管部局は企画課になると思いますので、自分で言います。その審議会に私は所属しております。1年に1度くらいの審議会ですけれども、そちらも近々あります。ずっとそれを思っていて言葉にもしたことがあると思うのですが、何か決め方が難しいんだというのは、私も分かります。どういう条件というのが良いのか、難しいんですよ。だけど、何か受け止める部分があると、またこういうところに参加する人達の幅が広がって良いなと思っています。

【事務局：及川部長】

特に色んな方、新しい方にどんどん入って来て頂きたいという思いもありますでしょうし、また一方では、今までの経験を活かして、更に違う審議会でも活躍頂きたい、という様な側面もありますね。

【能村委員】

そうですね、どっちかに偏ってどうのっていう話しでは、確かに無いですよ。新しい方が入ってくる機会を妨げても、もちろん駄目になってしまうので。以上です。

【事務局：及川部長】

懇話会で以前にも議論ありましたけれども、この目標値というか、数値にこだわり過ぎていけないというのはあって、やはり、6：4ぐらいになるのがバランスの良い時もあるのでしょうかけれども場合によっては、この数値が変わったり、理由があれば、例えば、審議の内容として女性の意見を幅広くしたいというような、本懇話会みたく50%くらいにとかですね。幅があっても良いな、という議論も前にありましたよね。そういう臨機応変なところがあっても良いのではないかと思います。

【角川会長】

1番は他に無いですか？はい、上木さんどうぞ。

【上木委員】

上木です。5番の地域自治システムの構築のところですけど、町内会を通じて報告する、というお話しでしたよね。それって回覧板とかを使って回すということですか。

【事務局：鎌田】

そのように聞いております。

【上木委員】

そうしますと、うちの町内会なんかは、独り身になった方は、町内会も抜けて、回覧板も回さないという方が、2、3人いるんですよ。私の班だけでも。そういう人達は、どういう風に救いの手を差し伸べるのでしょうか。現実なんですよ。独り身になったから、回覧板もいらないし、町内会も、もう用事が無いから入らない、会費も払わないという世帯が。多分考えられないと思うのですが、段々とみんな高齢化してしまって、町内会の意味が無いって捉えている人が、花川南では結構いるんですよね。そういうところには、多分、回覧板、私は要りませんって言うので、回っていかない人ですよ。

活発な町内会もあると思うのですが、私のところみたいに、もうご主人が亡くなって、独り身で暮らしている人でも、町内会の必要性を感じられないから抜けてしまう世帯があるのですけれども。そういう意味で、活発なところと活発じゃ無いところの差が出来ているっていうのかな、そこに一律に回覧板で回そうとか、そういう風に考えると、ちょっと無理があるかも知れません。

【事務局：及川部長】

非常にその通りだと思います。例えば、私の近くの町内会でも、そういったお話しは伺ったことがあります。町内会として、維持出来ないのも、こちらの方に吸収させてください、という話しも聞いたことがありますし、そういう意味では、個人として対応すべき、しなければならない非常に重大な問題をどうやって個人のところまで伝えるか、というものについては、一律な考え方じゃなくて、行政として意識して進めるべきだと思います。以上でございます。

【角川会長】

そういう方が増えてきている可能性があるのも、これは社会的に大きな問題では

あるのですけれどね。回覧板ってすごく良い仕組みなのですが、勿論、行き届かないところ、或いは時代にそぐわないところというのは出てくると思います。何か思い切った、例えば、この後出てくるICTの活用なんかも、もしかするとヒントになるのかも知れませんがね。本人達が使える、使えないじゃなくて、周りがそういうものを利用して、働きかけをしてあげる、という様なね。では、次いきましょうか。1番も後ほど総括のところで、ご質問等は受付けますので、よろしくお願いします。それじゃあ、2番、ICT、お願いします。

【事務局：鎌田】

(2) ICTの効果的な活用

1. クラウド技術を活用した情報化の推進

セキュリティレベルの高い自治体情報セキュリティクラウドを昨年に引き続き運用し、情報システムの安全を確保しました。また、自治体クラウドについては、他の自治体の状況を調査、聞き取りし検討しました。

2. 電子自治体の推進

Web-GISにおける防災関連情報を更新したほか、人事給与システムは、事業者が提案するプロポーザルを実施し事務処理軽減につながるシステムへ更新しています。

3. 休業・退職者の復帰支援及び人材育成

先進自治体事例の情報を収集したほか、育児休業取得者へのヒアリング、テレワークを実施する際の機器等の環境整備に関する検討に着手しています。

4. マイナンバーによる市民サービス向上

平成29年11月よりマイナンバーカードで認証した情報を基に子育てに関する受けられるサービスを利用者が把握することができる「子育てワンストップサービス」の運用を継続したほか、自治体ポイントに関する周辺自治体の実施状況を確認しました。

5. 統計情報や庁内情報を活用した政策展開

各課で持つ各種庁内情報を全庁的に把握できるよう集約し、どの課でも閲覧できる環境を維持しました。

【角川会長】

はい、それでは2番のICTの活用について、毎回出てくる部分なのですが、時代が大きく流れて進んでいますので、技術が進んでいますので、すぐに古くなってしまいうんですね。ここに書いてあることは、最新に近いとは思いますが、更に先に進んでいたりするものもありますから、なかなかそういう意味では、次々頭を切り替えていかなきゃならないとか、勉強していかなきゃならない分野の1つなのなのですが、本間さん、どうですか。

【本間委員】

はい、WebGISって石狩市の土地の形態が見れて、私も職業柄使わせてもらっているのですが、防災関連情報更新ということはありますけれど、これ、一般市民向けには、どういう使い方というか、お分かりになれば、教えて頂きたいのですけ

れど。

【事務局：森本課長】

WebGIS 防災関連情報については、避難所関係で新たに指定された分を最新に更新するのとかですね、スマホから、例えば自分の位置を特定して、どこに避難したら良いか、方向性を示す様な機能が付いているということで伺っております。

【本間委員】

じゃあこれは、都度毎年更新するのに費用がかかってきますか。

【事務局：森本課長】

毎年では無いでしょうけれど、順次条件を合わせて更新という風には聞いています。

【本間委員】

分かりました。

【角川会長】

はい、この3番のですね、休業・休職者の復帰、支援及び人材育成っていう部分なんですけど、人手不足が全国的に問題になっているのですけれども、そういったところでいけば、非常に必要な、ニーズがあるのかな、という気がしているのですが、育児休業取得者にヒアリングと書いてあるのですが、機器等の環境整備の検討、この辺がちょっと良く分からないので、こういった時期に、どういう感じの検討なんでしょうか？

【事務局：森本課長】

例えば、自宅で仕事をするのであればパソコンを家に持って行って、その中にデータが入っていると、個人の情報やデータが流出する危険がありますので、パソコンではなくクラウド上にデータを残す仕組みというのを構築するしか無いかな、と思ってまして、そういったものを実際業者に見積を取って、という、昔はセキュリティの確保やコスト面で導入が難しかった、というのは聞いているのですけれども、今は、セキュリティが大分進歩し可能性が出てきているということで業者の方から見積もりを取って検討するという内容になっています。

【角川会長】

当社でも、進めている最中なんですけれども、なかなかですね。個人のパソコンからデータを完全には抜けなくて、うちではフォックスとか、ボックスとかそういうのを使っているんですけどね、「そっちに完全移行しなさい」といっても、特に年齢が上の人はなかなか概念が難しいというかね、それとやっぱり、ある程度セキュリティの部分強化されたシステムじゃないと、結構トラブルもあるので、データが次々消えていくというのを、私経験しているんです。クラウドからですね。或いは第三者がクラウドに侵入してね、加工する、いじるということも、可能性としてはあるので、そういったところ、しっかりお金を掛けてやった方が良いんじゃないかなっていう風に思っています。ICT、他いかがでしょうか。よろしいですか。それでは3番ですね、時代変化の適応、こちらの方お願いします。

【事務局：鎌田】

(3) 時代変化に対応した事務事業の最適化と業務形態の変革

1. 特別簡易型総合評価落札方式（試行）の推進

社会・地域貢献度と配置予定技術者能力の追加基準項目について検討を行っています。平成29年度、平成30年度ともに各4件、計8件の試行実績があります。企業の施工実績や地域貢献の条件では、ほとんど差が出ず価格競争の結果、落札者が決定している状況です。

2. 公の施設のアウトソーシングの推進①

昨年度第4回の懇話会において実績報告済みですので省略いたします。

業務委託受託者である「いしかり海辺ファンクラブ」と別協議し施設管理を含めた指定管理を慎重に検討したいとの意向が示されたほか、他施設との連携・統合（渚の交番）など新たな方向性を検討するため現状どおり業務委託による運営継続を決定しております。

3. 【再掲】クラウド技術を活用した情報化の推進(広域化・共同処理)

こちらは、すでに報告済みですので省略いたします。

4. 新たな価値を創出する業務委託手法の検討

窓口サービスの業務委託については、他市町村の状況や研修などに参加し情報収集を行い、調査・研究を行っております。

5. 総合的な業務改善策の検討

職員研修を通じて、業務改善に関する職員の意識改革や士気高揚を図っています。

6. 両支所の組織運営の在り方の検討

本庁と両支所の業務分担や権限についてヒアリングを実施しています。

7. 総合的な交通施策を推進するための組織連携

4回の協議会を開催しパブリックコメントを経て今年3月に「石狩市地域公共交通網形成計画」を策定しております。

8. 指定管理者の評価の見直し

61施設で評価を実施し、評価表の書式変更と利用者満足度のアンケート調査に関する項目設定の検討を行っております。

9. 農業者への効果的な営農支援のための相談窓口の整備

「農地相談の日」を月2回実施、農地の貸し手、借り手の相談窓口として10件の調整を行っています。

10. 北石狩衛生センターの将来のあり方の検討

将来の方向性に向けて担当者レベルによる協議を実施しております。

11. 公の施設のアウトソーシングの推進②

昨年度第4回の懇話会において実績報告済みですので省略いたします。

12. 仕事の仕方の改革提案

外部講師を招き業務改善や業務の進捗管理、整理・整頓や人材育成等を学ぶ目的として業務の進捗を把握する業務管理やルール決めと実践に向けた業務整理の「組織のタイムマネジメント研修」を実施しております。

13. 外部団体の整理・統合・集約

平成 29 年度末に実態調査を実施した結果該当団体 1 件ありましたが、条例改正は、必要性なしと判断し行わなかった経緯があります。平成 30 年度において前年団体以外に対象団体に変動はありませんでした。

単 1 支援業務の体制構築

昨年度第 4 回の懇話会において実績報告済みですので省略いたします。

【角川会長】

はい、それでは 3 番、時代変化への対応ということですね、ご意見の方お願いします。

【角川会長】

これちょっとわたしからですけれど、7 番なんですよ、交通施策を推進する為の組織運営とあるのですが、これ、例えば軌道系交通の話とかってというのは、まだ市民ニーズの中には当然ありますよね。どんな感じなんだろうかね。

【事務局：森本課長】

聞いているのはやはり、石狩湾新港地域とですね、公共交通空白地帯、例えば高岡地区の方の検討ということで聞いています。

【角川会長】

そういう話ですか、分かりました。なぜ聞いたかということ、石狩商工会議所の施策検討委員会みたいところで、話題としてまだ残しているんですよ。さすがに難しいという議論には、なっているのですけれど、市民ニーズがやはりこの話題になった時、必ず出てくる、昔の話もございますのでね、残してはいるのですが、さすがにね。市役所としては、この辺は、実現は難しいということになっていますね。

【事務局：及川部長】

市だけで解決出来ない部分が、多分にあるものですから、確かに当時とは状況が変わってきているのは我々も認識してまして、当時は石狩から札幌に通勤等の人の流れが非常に多かった。今はこちらからも行くし、札幌からも来るという形で、過去に比べれば、利用者の需要というのですかね、需要はかつてよりあるのかも知れないな、ただ、全体の人数が減っている部分もあるのかも知れませんが、これは何とも言えないですよ。

【能村委員】

でも、本当に車が運転出来なくなった時に、どうやって住み続けたり、買い物行

ったりという不安はあって、とても大きくて、取り掛かるのに大変な問題だけど、ずっと気になることでもありますよね。何かね、仕組みが出来ると。高岡の方や運転がしんどくなった方などはね、ちょっと大変だっておっしゃっていましたね。

【角川会長】

循環バスとかね、安価タクシーとかね、まあ、そういう様なところかな、とは思っていますけどね。それで、他はいかがですか。松谷さん、どうですかね。

【松谷委員】

今のところでは、特に無いです。私もこの（３）の、時代変化にというところで、やっぱり交通システムですね、本当に、高齢者が増える中で、これは近々検討していかなきゃいけない部分だと思っております。

【能村委員】

９番なのですけど、今年新規就農で入った方に伺った話しですが、石狩は、年齢制限というものを設けていないそうです。それで、とても新規就農が速やかに出来て良いなと思って、石狩で就農された、というお話をちょっと伺って、やっぱり農業をやるというのは大変なことなので、他のところでは、４０代までとか年齢制限があるそうなので、今回５０代の方で、石狩で受け止めてもらえて、指導も色々教えて頂けて、大変良かったというお話をされていました。

【本間委員】

あの、私も９番で私の知る限り、高岡、望来でも新規就農の方が増えてきて、すごく良いな、と思うのです。質問ですけど、ＪＡいしかりにあると書いているのですが、浜益とか厚田地区の希望の方も、受け付けているという感じですかね。

【事務局：森本課長】

厚田・浜益地区では農協の管轄が違いますので、確認させていただきますでしょうか。

【角川会長】

よろしいですか。はい、それでは、時代変化に対応する人材育成、こちらをお願いします。

【事務局：鎌田】

（４）時代変化に対応する人材育成と働きやすい環境の推進

１．仕事と生活の調和が取れた働き方の推進

①平成３０年度の職員１人当たりの時間外勤務数は、１６６時間となりこちらは、災害時対応を含んでおります。災害時対応を除くと１６０時間となっております。過去３年の平均は、１６２時間となり対比しますと２％の増加となっております。

また、上限規制該当者においては、年間７２０時間を超えるものが１１名となっております。

②職員１人当たりの年休取得率の前年対比ですが、平均取得日数１０．６日となっております、前年対比しますと２％の減となっております。

２．活力ある組織づくりへの取り組み

定員適正化計画及び人材育成基本方針に基づき専門職を含め計画的に職員を採用しました。また、研修計画に基づき新人職員や若手職員（採用から5年目）の研修に力を入れております。

3. 職員の健康づくりの取り組み

昨年に引き続きストレスチェックの実施と分析を行ったほか、月1回の産業医面談や毎週水曜日のよろず相談など実施。総合健診受診率は、94.5%から95.8%へ向上し、さらに健診結果のデータ化を実施しております。

4. 臨時職員及び非常勤職員の任用等の在り方の検討

国のマニュアルを受けて臨時職員・非常勤職員を配置している全課を対象とした実態把握ヒアリングを実施したほか、管内市との情報交換を行い新制度に向けた課題の整理を行いました。

5. 特定課題の対応のための期限付き組織運営に係る運用

庁内のヒアリング結果から、行政課題の横断的対応を図るため、異なる部局の職員配置（兼務発令）を行うことにより、今後の課題把握を行うこととした。

6. 人事評価制度の適正な運用

試行結果を踏まえ、本格導入に向け、改善点の洗い出しを行うなど検討を行いました。

【角川会長】

この4番、私先程ちょっと触れましたけれども、人不足の世の中ですので、この人材育成と働く環境の整備というのは、非常に大事なテーマだと思っています。市役所の方は公務員なので、それなりに毎年入って来ますよね。倍率とかどうなのですか。

【事務局：及川部長】

去年と今年を比べると今年の方が、受験者数が多いですね。その辺については市としても、少しでも沢山の方に受けて頂きたいと思っています。かつては、他の自治体となるべく競争を避けるというふうに、また内定の辞退者を出さないということで、試験日を同じ日にぶつけて試験をしていました。そうしますと、やはり人気のある市、この辺りですと札幌市ですとか、そういったところとの併願ができないので、今年からあえて日にちをずらして実施したところ、去年は確か120人ぐらいだった応募者が、今年は200人ぐらいに増えています。ただし、今回は沢山受けて頂いていますけれども、辞退者も多い可能性はあります。

【角川会長】

そうですか、やはり民間の方が本当に人不足で、皆さん苦しまれているので、条件を良くしている状況ですよ。特に我々民間は、新しく入ってくる方を募集していくのは当然ですけれども、今いる人をいかに活かしていくかっていうことで、シニア層、或いはベテランの人達、本来ならもうリタイアされている様な人でも、何とか1年1年お願いして、残ってもらうみたいなことが、特に中小零細では続いています。本当に今いる人、どう活かしていくか、残ってもらうかっていうことは、大きな課題だと思うのですよね。で、1番のところで、残業・ワークライフバラン

スのお話しが出て、時間外勤務の軽減というのは、これは国の施策の1つでもありますので、大事ですけど、これを実現するには、やっぱり仕組みをつくらなければ駄目だと思うのですよ。人を増やして、仕事をシェアしていくっていうのも、1つの方法ですけど、民間ではもう出来ないですね、人がいないから。だったら、先程出て来た、ICT等の活用で何とか1人当たりの仕事を圧縮するというか、時間を短くしてあげて、それを残業軽減につなげていくっていう、まず私っていうか民間は、そういう考えをしています。その辺りは、役所の方、どうですか。市役所として、ICTの活用によって残業を減らしていくっていうのは。今のところ。何か具体的にありますか。

【事務局：及川部長】

今、ICTで色々な検討している部分というのは、最終的な目的として常に効率を上げる、或いはミスを減らすという意味はありますよね。ルーチン化するという。

【事務局：森本課長】

例えば、今パソコンを庁内ネットワークに繋ぐにあたり有線でやっていますが、無線にしてですね、仕事する場所を固定化しない。あとはRPAでしたら、Windows 7から10への切替というのを、サポートが切れるということで、職員の手で1台ごとバージョンアップの作業を実施しています、その作業で結構な負荷がかかるので、RPAである自動的に作業が出来る様な仕組みで、実際業務の効率化に繋がるのかを情報政策課で、まずは試しにやってみようかと検討しています。そういったものを広げていくと、人がルーチンで行っている業務を、少し軽減図れないかな、というので、検討しています。

【角川会長】

AIなんかですね、これからどんどん取り入れていかなきゃならないかな、と思っています。すいません、ちょっと私からお話ししちゃって。他、いかがですか。

【上木委員】

上木です。今、1番のところなのですけども、上限規制該当者というのは、どのようなお仕事をしている方なののでしょうか。

【事務局：森本課長】

毎年セクショナルには大体似通った部局になります。保健福祉部の方が、どうしても多くなっている現状です。これは、過去ずっとですね、人を増やしても、どうしても難しいですね、社会保障に関連する分野は、相談件数なども増えてきますので、随時対応をしていきますので、なかなか減っていかないというのが現状ですね。

【上木委員】

そこが1つの課題ですね。

【事務局：及川部長】

そうですね、制度も毎年のように変わっていきますので、それに対応する職員というのも、やはり対象の増加だけでは無く、制度自体が複雑化しているっていう様なことも、どうしても人手がかかってしまっている、という様な実態はあります。

【本間委員】

行政の募集で200人もくるというのは、すごい僕としては羨ましい限りで、民間からすると、石狩で人を集めるということ、すごく至難の技で、うちの会社自体も、正社員も40時間の正社員と、32時間の正社員をつくり、お母さん世代が働きやすい様に、新たな就業規則をつくったりしながら、人材確保に取り組んでいます。できるだけ途中で辞められるってことを防ぐ、早期退職の話しができましたけれど、やはり役所としても公務員の方だと途中の退職ってどれぐらいあるのかな、という。あまり辞められる方、少ないかな、と思いますが。どうなのでしょう。

【事務局：及川部長】

いたり、いなかったり、それぐらいの感じですね。数名程度です。しばらくは無いのですけれども、一時期、若い世代の方が新たな職を求めて転職するという様なケースが、目立った時期もございました。

【角川会長】

やっぱり今おっしゃっているのは、やりたいことが次出来て、前向きな退職だったらまだ良いのですが、大体退職される時は、民間もなんですけどね、人間関係、上司とのこと、メンタルで。大体そうじゃないかな、と私思うんですよね。3番の取組ですか、職員の健康づくりへの取組みって、ここも年々、心の病とかね、心のケアが必要だな、という風に思います。あれ、ちょっと基本的なことで申し訳ないのですが、石狩市役所って、そういう窓口ってありましたか。

【事務局：及川部長】

健康担当の職員が、専属でおりまして毎週水曜日が「よろず相談」といって、保健室に何でも良いから困りごとがあれば相談してください、という様なことで周知をしております。実際、職場の悩みを基に我々としてもフォローしたりしている、という取組みはしております。

【角川会長】

若い職員さんも多いですか。

【事務局：及川部長】

若い方もいらっしゃいますし、40代くらいの方もいます。メンタルで悩んでいる方というのは、若い方に限らないというのは、よく言われることで、昇進ですか、或いは職場での異動だとか、そういったことでメンタルに支障をきたすというケースもあります。

【角川会長】

あの、そういうところに相談に来られた方の、何だろう、データとか、どういう傾向の方が多いとかって、取りまとめされているのでしょうか。

【事務局：及川部長】

ストレスチェックというのを、一応ある程度の規模の企業、事業所であれば、やらなくてはならなくて、その結果については、ある程度データ化されたものがございます。その中で私なりに気にしているのは、業務のボリュームが、メンタルに影響

響を与えているっていう相関関係をイメージしていたのですが、実は、そうではなくて、相談できる人がいますか？という質問で、相談できる人がいる、という様なケースの方であれば、業務のボリュームに関係無く、すごく業務ボリュームの多い方でも、メンタルに問題が無い、という方もいらっしゃる。どちらかという相談出来るか出来ないか、という face to face、その部分が一番鍵なのかな、と私自身は思っています。

【角川会長】

そうなると、直属の上司とのマッチングだとか、そういったことも関係してくるし、若い人であれば、同じ様な年齢層の同僚がいるかいないかっていうのもあるでしょうね、そういう組織内の組み合わせも、大事になってきますよね。はい。分かりました。あと、いかがでしょうか。

【能村委員】

確かに市役所の中って、異動が起きると別な会社の仕事になるぐらい仕事の内容が変更して、すごい負担が掛かるというか、また全然違う世界を学ぶのかなとか対応するのかって、大変だなんて傍から見ても思うんですよね。例えば、メンタル的なトラブルとかが起きると、やはりその方の意向やフォローで、色々な対応をされるのですか。

【事務局：及川部長】

実質的には、対応することになりますね。ただ、年度途中の異動というのは、非常に難しい部分がございまして、その職員だけの問題では無く、他の方にも影響を及ぼすということで非常に難しい選択となります。

【角川会長】

あと、よろしいですか。それでは、最後5番、お願いします。

【事務局：鎌田】 省略

(5) 健全な財政基盤の構築

1. 適正規模の市債発行及び市債残高の縮減

平成30年度実績としまして32,528,139,000円であり、前年度末比較3.6%減となっております。

2. 健全化判断比率の改善（実質赤字比率）

平成30年度実績は、黒字であり、指標は国で定める早期健全化基準を満たしています。

3. 健全化判断比率の改善（連結実質赤字比率）

平成30年度実績は、黒字であり、指標は国で定める早期健全化基準を満たしています。

4. 健全化判断比率の改善（実質公債費比率）

平成30年度実績は、8.6%であり、指標は国で定める早期健全化基準の25%を下回っております。

5. 健全化判断比率の改善（将来負担比率）

平成 30 年度実績は、76.2%であり、指標は国で定める早期健全化基準の 350%を下回っております。

6. 財政運営指標及び健全基準の設定（財政硬直化比率）

平成 30 年度実績は、77%であり、維持管理経費等の増嵩により健全基準を上回っております。

7. 財政運営指標及び健全基準の設定（市債償還指数）

平成 30 年度実績は、0.96 であり、普通交付税の減により健全基準を上回っております。

8. 公共施設等の最適な配置

①望来小学校の廃止、②厚田中学校・教員住宅の除却、③旧浜益高校教員住宅の取得、④漁民団地集会所の除却、⑤旧浜益職員住宅の取り壊しとなっております。

【角川会長】

はい、5 番の健全財政基盤ということで、毎回この数字を見るとですね、本当に良く頑張ってやられているなって、いつも思うんです。前市長、本当に頑張ってくれたんだなあという風に、私は個人的に思うのですけれどね。いかがでしょうか。よろしいですか。

最後の、公共施設の配置、適正配置ということですが、30 年度を見ると、本当に廃止、除却、取壊しというのを、見ているんですけど、今後、施設の老朽化というのは進む一方なので、壊したりするだけじゃなくて、再利用、いかに再利用するか、まあ浄水場とかありますよね、結構な大物があるのですけれど。何か使えないかって、民間の力を借りなきゃですね。アイデアもそうですけど、民間で買ってくれる人がいないかだとか、結構斬新なアイデアも中には持っている人がいるんじゃないかな。運上さん、どうですか。

【運上委員】

そうですね、多分こういうものが沢山出てくると思うので、公共の建物もそうですし、住宅の空き家も同じことだと思うんですよね。で、住んだりするのは難しいかも知れないのですけれど、ただ社会貢献利用として使う分には、使いたい人も沢山いると思うので、公共の建物を使うには、難しいところがありますが、一般の空き家であれば、社会貢献利用に使うとか、あとは困っている人達にどう移住も含めて使えないか、だとか何か抜本的な新しいアイディア、長くは使えないとして、壊すということがあると思うので、短い期間でも、有効利用出来るかっていうのを考えるのが、良いのかなと思いますね。

【角川会長】

例えばコンペを行ってみるとかね。

【能村委員】

やっていますよね。厚田小学校と望来小学校でしたっけ、今年。どうなったのかな、と思うのですが、何か「使いたい人、手を挙げて」みたいな形をやっていた様な気がしたのですけれど。

【事務局：森本課長】

望来、厚田小学校、聚富小中、厚田保育園、聚富保育園の5つということで、この結果が公表されているか確認いたします。

【角川会長】

はい、確認をお願いします。それでは、5番の方、よろしいですか。それでは、1から5まで全体を通して、もう一度何かありますでしょうか。私から1つ良いですか。どうしてもこれは、場面があれば言っておきたいな、強いて言えば、市民協働の部分1番のね、観光まちづくりっていうことなんですけど、石狩のお祭りのことです。ご存知の通り、産業祭り、石狩まるごとフェスタですね、去年に引き続き、今年も無かったということですが、これ、色んな事情があるんですよ。花火を打ち上げてくださっているスポンサーの方が下りてしまったというのがあるのですけれどね。主催が商工会議所なんです。ただ、今までの石狩の夏祭りの歴史、冬祭りというのは、どうも出来ては無くなり、出来ては無くなり繰り返すみたいなのが多いな、と。やはりお金に関する事情がいちばんでしょうけれども市民からすれば、どこが主催、観光協会、商工会議所、市役所、とか関係無いですよ。何とか継続できる仕組みが出来なかったかな、とは思っていますよ。

今、実際に冬祭りが無い。寒中屋台村もやっていないですね。商工会議所主催だったのですけれど、人的なもの、基金の部分でやめている。今回のまるごとフェスタもやめて、来年以降に復活する可能性もあるのでしょうか、なかなか1回やめたものを復活させるというのは、非常に難しいかな、と思っているのです。規模にこだわらず、もう少し市の方も支援をして頂けないかな、と私、個人的な部分も多分に含まれるのですが、思うところがあるんですよ。お金だけじゃ無く、色んな人的なものであったり、場所の提供だったり、情報の提供でも何でも良いんです。本当に、子供達が結構がっかりしています。花火だけじゃ無く、お祭り自体が無い。あと、冬祭りも極端な話だと、雪山1つあるだけでも、全然違うんですよ。民間にお任せだよ、観光協会にお任せよじゃ無く、そこはアイデアなり力を貸してあげて欲しいな、と思っています。もう石狩のお祭りは、あまり長続きしないイメージが出来上がっています。さけ祭りという大きな祭りがありますけど。それ1本、になってしまっているの。ライジングサンはまた別ですからね。地元で根差した、市民がつくるお祭りっていうのを、是非もう一度冬、そして夏、市役所が中心になって考えて欲しい。そのことを色んな機会があれば、私もお話し、お願いさせて頂いているので。これも1つ意見として是非、お願いします。

【上木委員】

夏の花火大会は、若者も結構楽しみにしていて、うちの子どももスマホで見て、「石狩、今年は中止なんだ。」って言っていますよ。残念って。

【角川会長】

花火も、あんなに盛大じゃ無くて良いんです、はっきり言って。あれはお金掛かる訳ですからね。

【能村委員】

商工会議所の青年部さんが、ふれあいの杜公園でお祭りをやっていましたよね。

【角川会長】

そうですね、頑張ったと思いますよ。もちろん石狩商工会議所の青年部っていうことですがね。規模は小さかったのですが、夏祭りの1つとして、子ども達もいっぱい来ていました、ということですね。お願いします。是非協力をしてあげて欲しいな、と思っています。ごめんなさい、他、いかがですか。よろしいですか。はい、それであれば、議題の2番に進めさせていただきます。令和元年度の懇話会の「開催日程」について、ということで、事務局より説明をお願いします。

【事務局：鎌田】

令和元年度の本懇話会の開催についてですが、行革大綱2021の推進サイクルでは、「前年度進捗の審議・評価」・「次年度の実施計画への意見提言・審議」をいただくこととなり、各実施時期については、別紙の事務局案となっております。また、審議・評価のための懇話会とは別に、これを補完するものとしての「視察・調査」としまして今年度は、先進地視察として千歳市役所における「民間活力を導入した窓口業務」を事務局案として提案させていただきます。なお、スケジュールにつきましては、実施事業の予算協議や関係団体・機関等との協議によって、懇話会の開催時期が変わる可能性がありますので、ご理解ください。スケジュールと内容あわせてご意見等いただけますようよろしくお願いいたします。

【角川会長】

はい、本懇話会は、今日を含めまして、4回予定しておりますね。事務局提案を軸に取り進めることになるかという風に思いますけれども、こちら、ご意見、ご要望等あれば、ございますか。よろしいですか。それではですね、開催スケジュールに関しては、事務局提案を基本に取り進めるということにしたいと思います。これで行きますと、別紙2ですね、第2回の予定が、9月下旬から10月上旬ということになっていきますけれども、現地視察、これ毎年、もう何回目でしょうかね、4、5回お願いして頂いて、通常であればですね、民間の企業さん、或いは民間で活躍されている注目を浴びているといいますかね、運上さんのところにも行きましたよね。今回はですね、他の自治体の事例、先進事例を見学するという事で、千歳市役所さんということで、一応予定になっておりますね。よろしいですね。その他委員の皆様から何かございますでしょうか。よろしいですか。事務局の方から何かありますか。よろしいですか。それでは、ちょっと時間も早いのですが、本日の審議会、有難うございます。次回の懇話会の日程等につきましては、先程ありました様に、9月下旬から10月上旬を目途にですね、改めてメール等で、メール、FAX等でお知らせをさせて頂きたい、と思っております。それでは、第1回の行政改革懇話会の方を終了したいと思います。有難うございました。

(閉会)

令和元年 10 月 25 日 議事録確定

石狩市行政改革懇話会 会長 角 川 幸 治